



## 2006年の博物館

### 足寄のクジラ化石を一目で

**矢吹さん最初の発見：実はクジラ** 発見から25年目の2005年、足寄動物化石博物館設立のきっかけとなったベヘモトプスの展示替えなどにとり組みました。しかし、矢吹さん（ご兄弟）が最初に手にしたのは、実は、クジラ化石だったのです。このころは、ほぼ全身が確認されたベヘモトプスの影にかくれて注目されなかったのです。

1984年（昭和59年）の化石作業所開設の時には、クジラであることの見通しがあり、木村方一さんが研究を分担することに決まりました。ロサンゼルス自然史博物館のバーンズさんとの共同研究もすすみ、1995年には、最初のクジラ化石は発見の順番どおり AMP1 という標本番号がつけられ、発見地の茂螺湾と発見者の矢吹さんの名前をいただいて、モラワノケトウス・ヤブキイ (Morawanocetus yabukii = ヤブキ・モラワンクジラ) と命名されました。

**世界が注目足寄のクジラ** 次々と発見された足寄（茂螺湾）のクジラ化石は現在21標本を確認しています。全身骨格を復元した AMP12（アショロカズハヒゲクジラ = 足寄の歯の数が多いヒゲクジラ）やヤブキモラワンクジラなど「歯のあるヒゲクジラ」が8標本あり、互いの関係やヒゲクジラの特徴であるヒゲ板の起源の解明に迫るなどの研究が進んでいます。1998年の開館のあと明らかになったことも多く、その内容を反映する展示に変える必要ができました。

たくさんあるハクジラの化石は、いろいろな種類が含まれていてまだ整理しきれていません。でも、アカボウクジラ類の最古の可能性をもつもの (AMP19)、絶滅が心配されるインドのカワイルカの祖先かも知れない (AMP5、17)、世界中で見つかったスクアロドンが2003年にようやく発見された (AMP45)、など話題は豊富です。

2006年には、足寄のクジラの全体像が一目でわかるよう展示を改善します。



アショロカズハヒゲクジラ全身骨格

#### いまのクジラ展示

足寄のクジラ化石  
右のパネルは歯のあるヒゲクジラ



## あしよろ冒険王たち博物館を楽しむ

町内の小学生がとり組んでいる「すすめ！あしよろ冒険王」のみなさんが、1月22日、博物館で「びっくり！サイエンス」を体験しました。小学生27人、ボランティア高校生5人などが来館し、1日中にぎやかな歓声が館内にひびきました。



粘土のばして



手のひらをおして



石膏手形を作りました



紙コップがいくつ落ちるか



2人で協力、1人でもくもく、段ボール箱に穴をあけ



われないシャボン玉を工夫したあと

楽しくまとめをしました



ローソクの火がいくつ消せるか

空気砲をつくってゲームをしました



※「すすめ！あしよろ冒険王」は、日常生活では得がたい自然体験や団体での活動を通して、いろいろな人と協力して、がまん強く最後まで物事に取り組んだり、自分のことは自分でできる力など「生きる力」を育むことを目的としています。いろいろなところを訪れ、足寄のよいところを知ってもらおうとも考えています。教育委員会が総力をあげて取り組んでいる事業です。

休館日 || 2月 7日、14日、21日、28日の各火曜日

博物館の動き 2月～（館の行事や職員の動き、来館団体、など）

2月

- 4日) 別海町中央公民館
- 8日 芽登小学校3・4・5年生総合学習
- 16日 羅臼のシャチ研究中間報告会
- 17日 国立科学博物館（澤村出席）

### 行事案内の予定

探鳥会は3月号、  
あしよろ化石教室は4月号  
でお知らせする予定です。